



官
刻
孝
義
錄

卷
冊
四

筑
前
下

□ 9
1596
44



口 9
號 1596
卷 44



孝義録卷之四十四

筑前國下

孝行者熱玄湯

博多の洲之見町小寺の如屋熱玄湯と父母に
法久しく孝行あり日たとひ福岡の如屋熱玄湯と
て細々とこれをしてたゞとて利をとり出で
親乃ち食事をせしむるに親の如く孝行あり
とて此の如くして親を侍つてはかりしを其座に
たす事ありとこれと父母の如くして親を侍る
如くありとて此の如くして親を侍るにせ

孝義録卷之四十四

出りし後又文内もその志もや感く久し終るに
 見しより勅めけりされ熱き湯うけしものと
 くらうらや中れんを居らるや小なる親子徳と
 と睦しむくらしあれと享保十三年の夏に於て
 頗るにすえし後よ米とことごとくあへて無事
 せりおれとすし後あひ乃あまりに我家の使
 ごとく町年寄れ敷とて町うちの人と扱を
 つと人酒肴をまうもてめあふをり又熱き湯より
 といふふら汝孝ん湯とゆへよ人交を市申にい
 ておらると君乃賜をうけよとせしきまてもうけぬ

みふあふとのうらむとて湯をかうしあはれれと
 熱き湯いり孝行乃原とにわらふと全く親とのいさ
 涼く思也あはれとてぬるもわりあつとて親子
 たふの湯いりし柳はくらひわされる湯もあつ
 いと涼切しせみえとふ

孝行者八平

八平ハ福岡乃城下結屋町の昔人なり父ハ尾上平之助
 といひ母ハ吉原乃家士よつと人そ身を終ぬ八平は
 父をせめて後主人のいとまをこころし母と妻ふと成
 具しあはれ郡八反田村に居りていさか高し

をまぢりし折や火災にあらはく回し郡乃平尾村より
 うばの卜位とて人の田畠と耕しあまを後うらりと
 あはれしと熱れ病をやりて母も妻子もとれ病よと
 うさきしよひひあたらけうと定りあつしうらやう
 て病者のこころうらたぬうとて華ひ八友田村より
 ともたせとまじりあふ家士よりあふうらとまじり
 ありこれ給来よて家務を肩のゆかし種小つわぬ
 かの奉まともをやりて家子か人の髪ゆひさう
 やこととれ事と業とてとれまじりうらとまじり
 うらに又火災よかりとて母のなまはふらうらとまじり

たりしうらとれ緋を町ふまうとて昔人ごまうまじり
 ゆふ業をともたうけら八葉保十良乃事うらとまじり
 ともたうらうし種日二人の子とてまじり母とま
 じり八平生れつと貞実にしとあついまうらとま
 じり静るおん性うておんゆらうらとまじり
 縁と求りあ酒を飲まうらとまじり
 ありおらうら母と母ふはうて孝行をうら母のゆわ
 たりと甘とてうらとまじり
 室にともあひり湯とあひらうらとまじり
 うらうらとまじり老衰へうらとまじり

を書写せしむと思ひてまづ一冊買ひて料紙を求
ふ事乃む小海とせしむと隣に在りて醫師故田
某がありてその人年々米抽乃ハ巻とていふハ
加右衛門とていふ人にして安長寺の宗匠住持徳若
とて其傳の書寫をせしむに徳若と彼亦う者
心乃切らうと又感しとあてしむけり數月と経く
ぬと終りて一冊買ひて其の書寫れ方を熟しんて
折らうと書寫葉子とて物なると傳りてその海に經紙と
ありて一冊に之を年々經行くとていふとていふ
と思ひてしむしむと或時表の目録とていふけり

又其來より十町ありて東名の橋といふ所にて金銀入
るに鼻紙袋とていふ人部 加右衛門とて定規とて表の
に書か入のおうたるありて遊新ていふとていふ
は乃法也此人始とて物よ志多しとていふとていふし
とていふは乃物とていふとていふとていふの各とて
とて志向してけ地に札を立置り人必落せし人の君
録とていふとていふとていふ金銀とていふとていふ
乃物とていふとていふとていふ一里ありてけり
とていふ帝釈寺跡といふ所の旅宿とていふとていふ
旅とていふ人のいふとていふとていふ一冊に之の

銀のついでに金ぬれとて世にうらと書つてあつた大切なれ
それをもつてかへされると又それまたうらと書つてあつた
取立ての事ある事ある事ある事ある事ある事ある事あり
それに入る物ものちりちりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
金銀を金とせんといふ事ある事ある事ある事ある事ある
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
それとては銀とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
かゝる事ある事ある事ある事ある事ある事ある事あり
てとてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

まゝに世にうらと書つてあつた大切なれ
それをもつてかへされると又それまたうらと書つてあつた
取立ての事ある事ある事ある事ある事ある事ある事あり
それに入る物ものちりちりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
金銀を金とせんといふ事ある事ある事ある事ある事ある
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
それとては銀とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
かゝる事ある事ある事ある事ある事ある事ある事あり
てとてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ともあまうこおる見は十七才十二歳日ふせり時父乃
 づつこい出てあふ年の七月うせりつとりまにのそと
 て我世に去後と二人とにむと河をせり家業と耕
 作と小心を用ゆ良貞又と公夜乃勤怠らに親族小
 睦くまつふ者どあえれむへく常に先祖乃恩沢を
 思はれそ家成をこころにちかへりこころいれり
 やり母も病みゆしてま次の年死せり母も必父の
 遺言をこころあくとつこい重く種日彼もあ親乃公業
 とおりこころあつと十九と十六業此若りかまうしり意成
 をつりそ次家業日精力とそりて田畠ともあらそり

多く人とあうてきたるひは妻をむりあ家とあつり
 こ田畠とあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 家も見せりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 志せり種日目く小用り我全銀忌財たつといつとつ
 う物といつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 くれも同じあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 名成新吉といり清次房ハ男子二人あつりて兄と熱次房
 弟と孫太郎といりあつりあつりあつりあつりあつり
 つりの子と孫とふとあつりあつりあつりあつりあつり
 くあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

清次郎あゝ力と流く道よとつひ入しをわくく祥しく
 うけうへはりしい先乃想太希流く流七う難難と思ひ
 さらしてあまこれうこれ貞物のおひあを流くのひも役たな
 をそけくく清次郎もなむておぬくおひては井り
 そのまじとわう入流七と強居させぬを後こも先中
 叔父堀田地家財をつつこつてつひあつ志あつあつ
 かせ下款とあまこつてあつあつあつあつあつあつあつ
 く或る年老くあまこつてあつあつあつあつあつあつあつ
 立てあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 とおれあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

けり是みか父母乃遠之とゆりぬとつひあつあつあつあつ
 質のあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

貞節者さん

さんと相取初葉院出口の氏に助う娘さつあつあつあつ
 けりあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 と又ぬあの小娘やつひ相物つあつあつあつあつあつあつ
 人にやあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 らく酒をこれあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 けりあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 顔あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

とまおひ病にさへかひもなれど酒をよこ
 のと給ひく氣を散りあつてを頼まけけき
 けりけりの費といふをたれとあつて酒
 を求めあつての世と下戸いふまじく父はおぼく
 て終日乃耕作のはつとをよとせんとつて家
 内きつて酒を飲ひて父の飲ひをけりあり
 とるく田島乃とあつて父の事にと
 ふまてたのれとすあつて父は葉をよとつて出ら
 つて入りや一袒母乃世ふありてかた又かくて
 う死しての後とあつて靈をよとつて父とせ

一とせかまてはよの心正あつてあつてを借り
 ありけりてとつて親疎とあつて志ありて睡り
 公殺をけりてむとあつて公殺にあつてあつて
 易れ事人によつての世とあつてあつて
 勤りける妻も夫と回くゆはるをよとつて
 舅姑に孝養やつて村あつてあつてあつて
 らけりゆはる風俗とあつてあつてあつて
 ともこの後の名をよとつてあつてあつて
 錢をよとつてあつてあつてあつてあつて
 ちありて

園に志ありてさうりつち又身乃まゝとも聲小
とらぬ農家もせさうりつち六六義乃附り
組政をつら先しに享保十七年とつち玉中稲虫の
日さつひまのりも弟作さうりつち小民と今日といふ
ひつちもつちあひまうりつちよんかゝつちに後作
と貴と捨て鉄とさうりつち高倉村とつちあうり組治
と呼てあまうりつち鉄とさうりつち小民小町のあま
て蕨葛の根とつちあまうりつち妻ふひ屋とつちあま
さうりつち君のさうりつちあまうりつちあまうりつち
そとけぬ賊團とつちあまうりつちあまうりつちあま
あまうりつちあまうりつちあまうりつちあまうりつち

事なつちあまうりつちあまうりつちあまうりつち
人の吉凶をさうりつちあまうりつちあまうりつち
いけつちと教とつちあまうりつちあまうりつちあま
あまうりつちあまうりつちあまうりつちあまうりつち
さうりつちあまうりつちあまうりつちあまうりつち
聲にゆり孝室暦二年九月とつちあまうりつちあま
あまうりつちあまうりつちあまうりつちあまうりつち
孝行忠甚め
甚五は糟を那若松村乃百姓あり父と清七とつち
さうりつちあまうりつちあまうりつちあまうりつち

生て後たのくらせめしは又妻をひらく男子二人を
 うゆり兄は母の基五あて身を太作とてひひる
 基より母生質人にとりてむと人面をく結子を
 去揚と名ぬとけ日源切をう衣服を製くひひる
 向より基を揚しつねに新きふらととせく二人の
 実子にととのふりたふととせきけつ田地二段を畝
 とりてあり支法七月ありうし後ち家とつけ一畝五
 畝と基を揚しうあて人のこけ一畝ととめとて耕を
 しりとのれいと秋家に奉ふととせ基五切とてうり
 正並いして孝心ぬく農業はゆかき一園息を

きの首おを納ふるすすやふ小村夜とを後とてに
 せと母乃齡ととめ4傾とぬとと田地出或を行
 細工をやしゆととめくけしととて奉ととめれとも恩
 徳の心ぬくしととめくけしととて英吾ととめく
 母及隣をととめくもきくととめ例日あつととめく
 おととてりあつととめく事と結うてととめく
 食物ふととめくあれととめく細ととめくりことき
 老ととめく母ととめく家ととめくしととめく是つととめく
 ととめくれおととめく見日ゆり次ぬととめくていけつ母
 兄基を揚或はととめくつととめくの親ととめく人に苗き乃

ころして下新入村の神治養とて水氷りとうり溝を
 咄はきこふこ道うりしてたもれまに事かされは流
 わりう池乃半田比とふせりまりとうりわうら
 わひもほとよけと上田とらうらぬうらうら後と
 年老ぬとら庄屋乃勤を辞せりごめん

孝行者歎仙

相阿那薬院村とら女教育人と歎仙とつり父ハ
 忠次とら加摩郡中益村乃産たうりしうか門と
 け業院村うらけりて居て安永元年に病く死せり
 とら後歎仙と貧窮とありけりともいも是れとらう

ころし程に妹のいとつりかを奉て小出く己をとうりし
 て母氏喜むり孝初孫り勝せりとうり歎仙かく
 貧けけとら官位を切らとらうかりと目とら三味線
 とらたつて入社門とらたち物あひくを成とらうりい
 るく銀難せり母れ好先ら食物と絶とら程日海
 うけとらぬ胡とらと母小先とら起く子流とら
 水とらとら或ハ茶とせんて母に目とら成つけ
 己もその小茶と飲とらうらとれと物終とらあを歎ひ
 とらとらとらとらハ菓子又は恰の類と去産とら母
 年去て眼とらく起居とら小自由とらとらとらとらハ

己も又わがふれのり人なりとて母をて妹に奪らば
 やめさるるは彼も又人にとられんをて人屋さる
 兄を奪りけく母に孝義厚かりと志らるるのら
 いとて領主の申問要助とてし者の妻となりし七十
 歳にあらる舅姑を法入といふゆえやうとて実の父
 母を養育してありたれど家の内和さ睦くしてま
 致仙もとれはさうにうつま住くゆへ暇あふとれを
 母兄をうけとて父とてつとてあつて要助ハ養子して
 父母乃あつていふとてわらぬるもさうかくいそ
 孝心たうしすく彼もその初むをあらためて親子

乃際つ母睦かりき致仙の母は七十の母りあつて
 病て死しぬかりし後と妹と徳とを母に送るを
 うめくちりて切に國恩を忘る致仙いふあてや
 て彼らう初むをうて人出致者もさうとて領主う
 弟と致仙の母を人いふとの養子とて見せり
 安永七年れるたうとて

貞節者

家像那去穴村ふとんとてふ屋のりりりとはを
 賀那戸切村の角右馬の娘を十九歳のときとて
 去穴村の百姓源義の妻とてさうりてとてあに十年と

秘日衣と云々... 人となり...
 突く次... 佛事...
 一日を親を... 於る...
 直夜と... 天明元年
 願まよ法事の... 罪人を...
 事の熱吉... 父乃と...
 願ひ... 其時を... 父の教...
 悲... たる... 小流人...
 ひと終人... 終ひ...
 いつ願まよ... 天明...

固六う流罪をゆ... 家に...
 此世遂... 後と父...
 と小... 夕れ食物...
 人... の... 孝
 養... 月...
 獲...

孝行者きた

... 宗像郡... 百姓...
 ... 脚氣... 病あり...
 ... 父乃... 助と...

して耕作を勤く種日一町あまう此田畑ををりら
 かりに渡世をいふふりかくる正助と天宮は
 也のふれ病て死しぬを付てこの十四婦ハ十七歳を
 といひ曰業をうりて力をいひてて毎耕作をいけ
 して又田畠乃ちうりていも祖父の付日とてふら
 成付婦の氣に雷てて半年あまうもるやう
 といひ小藤治を加へられはるうりに瘡をい
 其身ゆよくふうて農家乃はと人をあうて
 程よとてこの獨りて毎作業よ力をいひて
 靱りと田畠を肥はる澤の抱をい持運いといふ乃

事人に後世を中をを田畑のはつあ麦田乃す紀久く
 おれ女の力に及まざる程乃半ハ遊兒のり此男を
 を頼ていとのとら山林の薪を伐てをうといひ
 きいもせをうけるおれ本村乃貢物ハ日那福る
 浦といふおまを牛馬につお出しては浦よりおれ
 至といひ福是乃城下日送るふうてそのおまを
 福与とおれあひとおほよそ一里半程の道をうりしうと
 たを日くじ二度ついでさうといひ或は胡てい田浦と
 て十二町もわさうたる畑の大根をいを父母の起
 さふといふらおれ流し洗ひうりていお貢物

是法多つてしるもまた父乃てふふあやめ時を
 津金崎浦とてふ所の醫者をたのむに主しに是も
 一里半とありし乃道ありしとて私業をこひあつた
 ひしひよりあつてをあるとあり女抱さうの抱きて
 も更よし稱さうりり孝満と名づのいふぬを折ゆ父の
 耕作は出成と隣村をふ小徳来せり日言て後
 らされとさたはねぬを焼して迎ひにゆきぬ病
 用小費多しとてくつひく弟後弟徳を法する徳
 後とありとありて業細工をいふると又大徳心と
 して致しううに福子に櫻炭とて小物と牛よつけ

送里その秋賃とてある父の好光る念するとうあ
 ぬく至乃てあつたはつた致すともねたあつハ母乃
 うをばく事おとをたともあつとをさほごりの稚子
 是その風俗はうつしとを姉と旦那乃津丸村の
 何某の家よなせやふうねふつとあつとせらば
 とありとありぬさうしう主人もさたり孝心と彼
 及ハ彼日いとまごうせはその労苦をい屋内孝
 義とてはちとせんとして心をそへてつひにふ
 けよう領主にはえをねて天明八年此正月某をい
 を入てその孝行と褒めせり

海くろくさうけせむ是洗ひ履をさ杖さふるきて
 もみろ次有馬日たをけら進を此よりけら背
 おし進めらと志んくふり如承八良くくもやう
 小加を揚いたの儀十二歳此初稚よりては此よの及由
 けさ主人これ八次有馬をさうくさあう海門の事を
 うけをさ直夜とぬく女抱よゆをささうくは此志
 ろくもあうて回き年此をむたうくふりぬ志は
 子稚をさおを揚をたら祖母作有馬後乃妻日けり
 うふ業此男子のさうくてをさく海を親族もふけ
 此古後乃事も是業をさうくく只次有馬くさあう

ひりああ藝礼佛事たあこのと教さふくくは人たりか
 きては家業もなうくくは養へは此をひもくと危う
 けりて福日次有馬の稚をさ加を揚を伴ひく孫を
 漆物をあつて人々此家によさ不幸の事なると
 つきいりりりあをさうくさうあ人くは此志
 くと小つて人々此人多と云業此をさくは程なく
 家業を娘ひをささやうくくはさうもりあの後妻は
 娘姑の際睦くからけささあ男子のり小親里へよ
 志んく祖母をささあいらさうかへさうく加を揚一人に
 ありし程よふとも家業日とささう次期夕代食事

之とつらつ個人發ゆ六月代刺公海と相く給根とく
 むうくふ事ふりてしう加を揚町設ふとふさく
 時と幸ふたつる主人の勤いりてとめ已出て勤をとい
 揚りてあくいと揚りてれたる加を揚りすこととひ乃を
 として日備もと出にあり加を揚り大叔父に次を揚りて
 ことりあく老くつらつ身をあへてと方ふりてと主人
 ととくめしその家日び人苦いせ公屋とくそ身を終
 く先々ふとと加芳水と作右馬つ志日とつやよ及て
 次先祖乃系よ急ふまへたるとともととに育りて
 寺日信くして人て然りかき深切に教へてつら加を揚り

人ことつらつとくくく種日今と次右馬つ芳若も若くを
 みえく次右馬つ父と与と希とて志摩郡野北村乃
 百姓ちりつふととあまこととつらつ加つ加家れりてとひあ
 りてととと液世をいりてととと加福りてととと地也由田
 畠と質いりてと次右馬つハかき家云ふつらつ次と人加
 若ふととつらつと男とと男とと海と知りてとととととと
 してとととととととととととととととととととととととと
 乃との子もやと人となりてれたるかの質地とととととと
 うけ久くと男にあくと耕とせとととととととととととと
 志在小田郡乃所吉村とつらつ又信作とととととと

けりしを次右馬の屋をそのほとり宅地をあら
 あらたし家作らるる一畝父母にあえてうけり
 任せ明くれこり費正者とて米銭ゆふを後代
 送り借銀ふとまても償ひぬる者うけの先
 半の隣も又睦しく志しとれをいひともい
 もりあり又人の艱難をいふ者をもいぬ
 付まきの治法うき海よりとみれと必杖をあえ
 くとそと他儀懸乃初ひ多かりしう大屋うけた
 くといなりきささぬに次右馬の二代乃主人につく人
 中へ天明八年にむらうてと人く女九名れりなると

志し只家乃業のそふすありとみれりよむる
 まるも心をそと一赤き勝る艱難を志れとて
 願主にゆえあれと米銭あふくと優美せり

孝行者左右

庄吉は鞍馬郡上牧野村の百姓もて二畝八畝あり
 乃田畠をりてう母につく孝養尊く時々乃
 耕作まも母のをく人にけい柱はあれと
 あく菊の道乃とれをきふ事もあるその教
 をとむく事ふくまふとて取用りてうとて
 ゆるとてとてい出の時と母れ面よいたむい

是乃のこころをなめやじ申さるるに申す所は古産
 る事求め申すに申す母の心とやゆふ事と申
 勤と申す事と申すに賣しに候具と申すも申す事
 及と申すにのこ故帳を用かたると念りある事と申す
 と申す事と申すことと申す事と申す事と申す事と申す
 火してを暑を凌ぐ事と申す事と申す事と申す事と申す
 て申すのゆふ事と申すも自由事と申す事と申す事と申す
 悔ふ事と申す事と申す孝の心と申す事と申す事と申す事と申す
 の九十にありて中風をわく事と申す事と申す事と申す事と申す
 六十より申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す

兄弟あり然も父に孝の心ありて申す事と申す事と申す事と申す
 事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す
 願ふ事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す

風俗宜者忠右馬

風俗宜者若太師

風俗宜者徳七

風俗宜者孫次郎

風俗宜者惣百姓

宗像郡宮川村に其高六十二町一畝八畝二十六歩の所
 ありて申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す

節とせしむるにむらう村ら北風俗正しく海
 て忠義の伝を承りしを二十七年のころに組改の
 志ありあをきよくたれて組改も海に村ら人の教
 神人の海よりしていつても國恩をうをまひ法度と忠
 義不討の夜とくも他村よりとれつと先づ
 ち北宮司村と海濱より多くは砂海より北渡地
 ちと耕しむるにむらう田面にち海とむらう
 くとむらうの海むらう村よりしていつても度とむら
 田のちをむらうはくく蝗のちをむらうたむら
 時をたむらう油と流しむらうて入て農業にむらう

ちむらうに米穀のちむらうより麦島ふらむらう砂地
 むらうよりむらうはむらうの魚と湖とむらうの夜と
 後色に出く藤とむらうむらう地味を肥しむらう
 むらうむらうむらうむらうむらうむらうむらう
 むらうむらうむらうむらうむらうむらうむらう
 子とむらうむらうの葉細とむらうむらうむらう
 葉北とむらうむらうむらうむらうむらうむらう
 力をむらうむらう儉約とむらうむらうむらう
 吏食乃貯ゆむらうむらう彼ら伝をむらうし後田島
 のらむらう年とむらうむらう貢物乃教をむらうむらう

六車といふは及國中稻虫の災にうりし海邊乃村と
 之貢を減しゆる春と領主より銀や下はるやけり
 一の是月村に領主より此をりたりと又新民助
 合といふ法とてとく病或ハ災にうりて家財田宅を
 うゆ者あれと親族とつと及とけりるもの若く
 かり法とてある助けとせむ村人の離散をといふこ
 とはふりきせば村うち此後田かといふは只天水
 のととたれとていじりうり早損ありとて多かりれ
 とも此の善忠右馬の領主といふことなりれ若
 けりは天長とてくつらんを免あつたは境をつれ

若とてともさへんといふゆふとてつとものエカ難
 一もれといふも之村うち此力に及ひぬゆり一は
 忠右馬の我一村乃とて人たれハ余右の力をうけふ
 にあつたは田はうけひぬ忠右といふは事ありて
 ともあ年々農事れといふてとく小と土歳うりの量を
 とて先てむかふゆり出とてとてゆせしに凡二ふ六
 百人あまるとり力もて境とやうくにさつれとて小
 寛政元年の首代とて水れものたよりとて桂はもり
 ともゆりていふゆり村うちとてとれとていふ
 はまゆりていふ天和二年より四百人にいふとて人別

たうしうとこれにたてまゝに小家敷増加りて今ハ百
廿一人ありぬりゆとありしは領主よりと家てしに米と
何ゆへに在組取とたてりて獲てしたるきと
寛政二年のりより

孝行者もん

もんは秋月の端中上町もとせぬ大工と市とある
じまれつふ海舟やうめしあうりせられ物産りも
人のうらやをいふとよこ老をる姑もつ入て
帯とぬく孝行とせせふる慈母の嬰児をよき
うてしとん家貧くとれまゝにたむりしふらる

あつてぬぬのいふけとて食物とてとぬぬの
かまるとして心なふらふとて日く心地のあ
あかふと老ふとては女抱しとらある時母れ
とてしとて後と祖母乃ゆめとてあ親里より
とつらうしとてましとてはれ姑もとせ隣より
乃とてしとて病と志のふらとては次なるとれを
せとてしとて物とてしとては又姑もとせ
れとてしとてあつたるとてはとてはとて
かく病乃とてあつたるとてはとてはとて
てとてしとて藤乃とてはとてはとてはとて

埋めて姑らうとてふによきをたれたる志をよとかけとて
 へくせらるるをうとてふにその人姑らうをよとせら
 て物とふ者のまをさうり母とまれば老く食物とよ
 とせたりとておのれをうとふとんいとのれうとせう
 とてせらうとせうけあふてとぬ志をよけとせう
 菊を買ふもあつて姑ら山林の落葉をよとせう
 一羽一羽彼ら海うとて種々姑らとて芳若とせう
 とて冬も火を消しつゝ元結とてうとせう
 とんいよとせうとせうとせうとせうとせうとせう
 よはあつて姑らぬと元結とてうとせうとせうとせう

是故もつらとせうとせうとせうとせうとせうとせう
 酒を好むとせうとせうとせうとせうとせうとせう
 来つてとせうとせうとせうとせうとせうとせう
 へくせらるるをうとてふにその人姑らうをよとせう
 いあけとて明和八年の四月茶とせうとせうとせう
 せう

孝行者徳五郎

徳五郎ハ秋月乃城中今小浜町日とせうとせう仁助とせう
 仁助とせうとせうとせうとせうとせうとせうとせう

